4. 11. 1
佐倉市 教育センターだより Vol.58
令和4年11月1日発行／佐倉市教育センター／TEL. 043(486)2400 http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/13-6-0-0-0_6.html

子供たちに寄り添いながら

佐倉市教育センター所長　田中　雅明

ススキの穂も開いてさわやかな風に揺れています。柿の木を見ると青かった実もオレンジや赤に色づいてきています。秋の深まりが一層増してきました。新型コロナウィルスの感染状況もだいぶ下火になったとはいえ、まだまだ予断を許さない状況が続いています。そのような中、各小中学校では後期が始まり、運動会、校外学習、修学旅行など学校行事も感染対策を十分にしながら実施していただいていることと思います。少しずつではありますが、子供たちも以前の日常を取り戻しつつあるように思われます。

さて、教育センター業務の一つに「教育相談」があります。日ごろ保護者や子供たちが抱えている悩みや困り感などを、教育センターや適応指導教室にいる相談員や指導主事が、「就学に関すること」「人間関係に関すること」「不登校に関すること」など様々な相談にのっています。

今年も、教育センターには日々多くの相談が寄せられています。その中で今年の傾向として少し気になるのが、不登校に関する相談件数が多くなっているところです。昨年度と今年度の９月までの相談件数を比較すると、昨年度は８３件、今年度は１２８件と１．５倍になっています。

そこで、学校へ行きづらくなる原因を考えてみますと、原因が一つの場合もありますし、いろいろな事が重なり合い、複雑に絡み合っている場合もあり様々です。最近の傾向としては、「友だちや先生との人間関係がうまくいかない」「周りの人からどう思われているか不安」など、不安が複雑に絡み合い、結果として足が向かなくなってしまっている子が増えています。

不登校の児童生徒への対応をするうえで気を付けたいことは、どの子にも起きる可能性があることとして捉え、悩み苦しむ子供たちとその保護者に対して、周りの関係者が十分に寄り添い、共感的理解と受容の姿勢で接していくことだと考えます。

子供たちは、感受性が強く、周りの大人の気軽な言動に対してとても敏感に受け取っています。良かれと思って声をかけたことが、実はその子にとっては、負担に感じてしまっていることが、あるように思います。また、大人から見ると「できて当然」、「やってあたり前」のことでも、子供にとっては、それが大きな山となってしまっている場合もあります。子供たちの受け取り方は千差万別、感じ方も様々です。まずは、じっくりと話を聞いて共感し、それを受け入れることから始めていただけたらと思います。言いたいことを口に出すまでに、時間がかかることもあるかもしれません。でも、焦ってしまえば口を、さらには心を閉ざしてしまうかもしれません。心にゆとりをもって、本人が今後どうしていきたいのか、学校（担任）、保護者にどのようにしてもらいたいのか、話を聞いてください。また、話ができる人間関係を日ごろから作ってください。そして、それに対して共感・受容しながら、その子にとって一番必要な支援を一人で考えるのではなく、チームで対応し、本人、保護者、学校とが共通理解しながら同一歩調で進めていただけたらと思います。

どの子も安心して落ち着ける「居場所」があると、学校が楽しくなり、「学校へ行きたい」という思いが生まれてくるのではないかと思います。さらに、その「居場所」の中で、人との良好な関係（絆）を子供自身が築いていけるように意図的に仕組んでもらえればと思います。そうすることによって、自分の存在感のある場所で、深い絆で結ばれた友達に囲まれ、自己実現に向けた、より充実した日々を、安心して過ごせるようになるのではないかと思います。

学校では、不登校の児童生徒に対して日々の電話連絡や家庭訪問、放課後や別室登校などその子にあった対応を親身にしてくださり、誠にありがとうございます。これからも、学校、教育センター、適応指導教室等と連携を図りながら、共通理解のもと、その子の社会的自立に向けて支援を続けていきたいと思っております。引き続きよろしくお願いいたします。

令和４年度　佐倉市教育センター報告会

佐倉市学習状況調査の効果的な活用について

「佐倉市学習状況調査の効果的な活用」をテーマに、佐倉市の小・中学校における学習状況調査の活用状況を調査しました。その結果をもとに、児童生徒の学力向上や、指導法の改善を図るため、佐倉市学習状況調査・好学チャレンジプリントテスト（調査の練習問題）・調査報告書のより効果的な活用方法を考察し、報告をしました。

佐倉市学習状況調査とは

対象…市内小中学生、教職員（教職員は意識調査のみ）
内容…教科に関する調査（国語・算数・数学・理科・外国語）、質問紙調査、佐倉学調査
実施時期…中学３年生は１１月～１２月、小学生と中学１，２年生は１月

佐倉市学習状況調査の活用状況に関する調査結果

③調査報告書

②佐倉市学習状況調査

①好学チャレンジプリント･テスト

① 好学チャレンジプリント・テスト（佐倉市学習状況調査の練習問題集）は、補習授業や宿題プリント、ドリルタイム、テスト対策等、様々な用途、場面で活用されていました。休校中の家庭学習の課題にも役立っていたことがわかりました。

② 佐倉市学習状況調査は、調査後の児童生徒への働きかけに、小学校と中学校の意識の差が浮き彫りとなりました。小学校では全２３校で、調査後に間違い直しをし、問題を解き直し、教師が解説していました。しかし、中学校では、８割の学校がテストを返却していませんでした。調査の意図を明確に発信していく必要性があることがわかりました。
　また、授業改善の視点では、小・中学校ともに、実施後に教科会議で正答率の低い問題やその指導法について話し合ったり結果からドリルタイムの計画を見直したりと、各学校の実態に合わせ、工夫して活用していることがわかりました。先生方の児童生徒に対する学力向上への強い思いを感じました。

③ ２種類の調査報告書（速報版…各校の結果や児童生徒の傾向をグラフや表で示したもの。報告書…市内全体の傾向を詳しく分析し考察したもの。）については、ほとんどの学校が、自校の結果を校内に周知している一方で、「活用はしたいが、どう使ってよいかわからない。」との回答もありました。新年度に児童の学習状況の把握に活用したり、研究テーマの決定や指導案作成、指導計画の改善のための資料として活用したりしている学校もありました。

まとめ（これからの活用に向けて）

佐倉市学習状況調査の学校年間活用モデルプラン

4月	5～7月	夏休み	9～11月	12月 冬休み	1～3月
好学チャレンジプリント・テスト ＜年間を通じて活用＞ドリルタイム、宿題、自学プリント、月例テスト、単元の予習復習、確認テスト ＜時期に応じて活用＞長期休みの課題、休校･自宅待機等の課題、学年末の習熟、テスト勉強					
				12月 佐倉市学習状況調査(中3)	1月 佐倉市学習状況調査(小1～中2)
4月 報告書ファイル （佐倉市）	教育計画作成の資料 (学校経営、研修、学力向上等)				2月 報告書 （各校の速報版）

調査結果から、好学チャレンジプリント・テストと佐倉市学習状況調査、報告書を、各学校で工夫して活用している様子がわかりました。**校内組織の中で計画的に活用することが効果的**であることがわかったので、左記のモデルプランにまとめました。
　今後も、教育センターは、効果的な活用例や実践例等の情報を共有できるようにし、活用を推進していくよう、努めてまいります。

学校図書館の現状と課題～読書好きな佐倉の子どもを支える工夫～

「学校図書館の現状と課題」をテーマに、国・県・佐倉市における学校図書館の利活用の動向と、各小中学校における取組調査から読書好きな佐倉の子どもを支える工夫について報告いたしました。
また、佐倉東中学校から具体的な取組について紹介していただきました。

読書好きな佐倉の子ども

図１より、佐倉市は読書好きな子どもが多いことがわかります。
なぜ、佐倉の子どもたちは読書が好きで、多くの本を手に取るのでしょうか？
読書好きな佐倉の子どもを支える３点を紹介します。

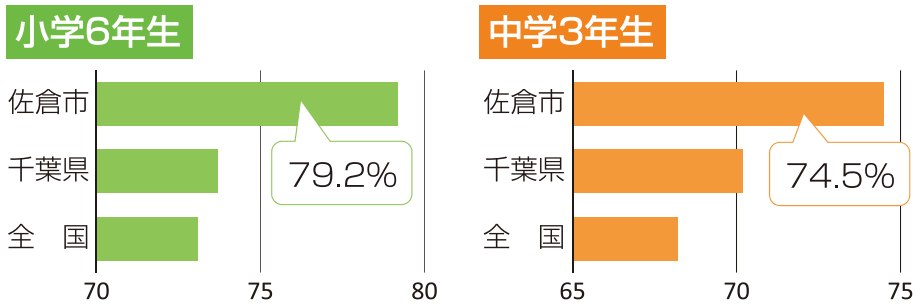


図１「読書は好きですか？」（令和４年度全国学力・学習状況調査）

(1) 読書時間の確保

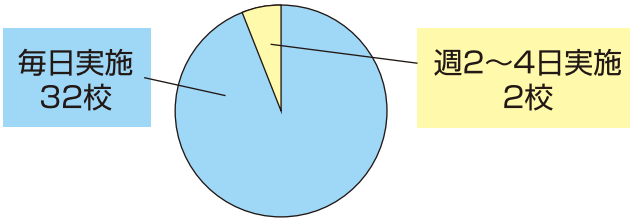


図２「全校一斉読書活動をしていますか？」
（令和４年度佐倉市学校図書館に関する調査）

佐倉市では、全小中学校で全校一斉読書活動を実施しています。図２からわかるとおり、多くの学校では、毎日忙しく流れる時間の中でも、朝の読書など、本と向き合うきっかけの時間が確保されています。

(2) 読書への関心を高める取組の工夫

（学校図書館担当者へのアンケートより）

① 多様な本に触れる工夫
- 読み聞かせ・ブックトーク
- お話給食
- 発達段階別のオリエンテーション
- 多様な図書委員の活動

② 読書量を見える化する工夫
- 読書貯金・読書通帳
- 達成した目標に応じて
  ⇒「読書の木」の掲示物に実を貼れる
  ⇒図書委員作成のしおりがもらえる
- 多読賞を放送や手紙で紹介

(3) 授業における学校図書館の活用の工夫

① 佐倉東中学校の実践事例

学校図書館司書との
計画的な授業連携

本を通した学びを生み出す
学校図書館司書の
専門的なアプローチ

生徒が多様な本と出会うための、さらに、本を通して現代の社会的事象や、美術館・博物館などの関連施設と出会うための専門的なアプローチの仕方を紹介いただきました。

② 学校図書館担当者へのアンケートより
- 教科学習に関連する本の活用・紹介
- 本とタブレットを併用した調べ学習
- 児童生徒の学校行事等の感想と関連する本の合わせた展示
- 児童生徒が選書に加わる取組
- 学級の学校図書館利用予約表の改善
- 調べ学習用の情報カード作成
- 計画的な学校図書館メディアの購入

年間利用計画の活用

学校図書館担当を軸とした
教職員と学校図書館の連携

学校図書館司書の活用

→

学校図書館を
利用した
学習内容の充実

図３　学校図書館の計画的な利用に向けて

まとめ

佐倉東中学校では、図３のように、限られた学校図書館司書の勤務を最大限に活用し、教科の授業に学校図書館司書と連携した授業が計画的に位置づけられ、学習内容の充実を図っていました。
教育センターでは、今後も学校図書館を利活用する各小中学校の取組を応援していきます。

特別支援学級と通常の学級の効果的な連携について

特別支援学級と通常の学級の効果的な連携をテーマに、佐倉市の小学校、中学校でどのように交流及び共同学習が行われているかを調査しました。その結果をもとに、交流及び共同学習を充実させるための効果的な連携について報告をしました。

交流及び共同学習の意義

障害のある子供　障害のない子供

経験を深め　社会性を養い　豊かな人間性を育む

お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会

目的
①相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育む」
②「教科等のねらいの達成」

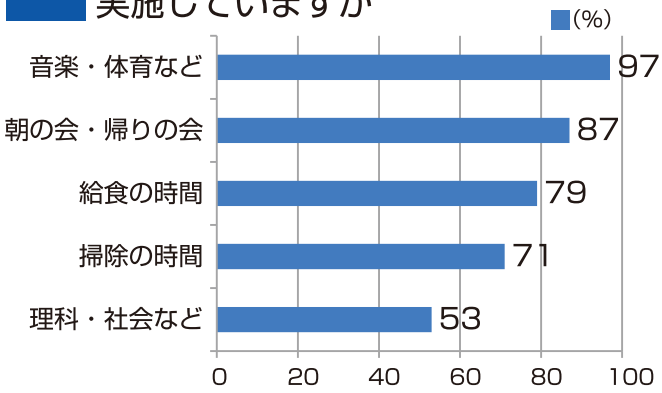
平成31年3月「交流及び共同学習ガイド」より

佐倉市内の特別支援学級の担任と通常の学級の担任に対して、実際にどのような場面で交流学習を実施しているのかアンケートをとりました。

右面の図１にあるとおり、交流及び共同学習は、学校生活の多くの場面で行われています。

また、別の質問では特別支援学級の担任の９５％、通常の学級の担任の９０％が、交流及び共同学習は「プラスの効果」があったと回答しています。

図１ 交流学習をどのような場面で実施していますか



交流学習による「プラスの効果」は、特別支援学級では、自信や意欲につながり、通常の学級では人との接し方に変化をもたらしており、双方の児童生徒に効果があります。

特別支援学級

自ら話す機会が増えた
支援学級での学習意欲が増した
自分から質問や相談ができるようになった
自分の考えや気持ちを表現するようになった

自信・意欲がついてきた

通常の学級

優しく接するようになった
困っている友だちに積極的に声かけをするようになった
教え合いや励まし合いが多くなった
人の話を最後まで聞くようになった

人との接し方に変化

双方の児童生徒にプラスの効果

まとめ

先生方が普段から行っていただいている、「対面での打ち合わせ」「週案での確認」「双方の様子を見に行く」「作成したツールの活用」等の**日常的な関係教職員の連携が大切**であることが、あらためて明らかになりました。

特別支援学級、通常の学級の双方にプラスの効果をもたらす交流学習を通して、子どもたちが分け隔てなく人にやさしく接し、一人一人が明るく元気に学校生活を送れることを願っています。

今後も、教育センターでは、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の作成や活用が、各校でより一層進んでいくよう努めていきたいと思います。